

緑の学園を開催しました

農業を学んでいる高校2年生を対象にして、農業経営への興味と関心を深め、就農への意欲を高めてもらうことを目的に「緑の学園」を8月1日に実施しました。農業関係高等学校校長会、農業大学校、国際園芸アカデミーの共催で開催し、県内7つの農業関係高校から16名の生徒さんに来校いただきました。

「野菜」「果樹」「花き」の3つのコースに分かれた体験実習では、指導職員や本校学生の指導の下、パプリカの収穫、トマトのわき芽かき、柿の袋がけ・ネットがけ、トルコキキョウの収穫、ラウンドブーケ作成などを体験してもらいました。教える立場になった学生は、先輩らしく積極的に説明をしていました。

若手農業者(農大及び園芸アカデミー卒業生)と語る会では、酪農で雇用就農した岡本さん、後継から現在自営就農でいちごを栽培している高木さん、後継就農で鉢花、ポット苗を生産している國井さんの3名に来ていただき、「私と農業～これまでの歩みと今後の展望～」と題して農業を目指そうとしたきっかけや経緯、現在の経営、夢について話していただきました。その後、3グループに分かれて「私がやってみたい農業」について、若手農業者の助言をもらいながら生徒同士で夢や悩みを話し合いました。

「本日の体験を通して同世代の生徒同士と交流ができ、また自分の進路選択を考える良い機会となったのではないか。」と加茂農林高校の佐藤先生より講評をいただきました。

参加した生徒からは、「農家さんのリアルな声を聞くことができ、とても勉強になった」「座談会では他校の人とも仲を深めることができた」「今回の研修を通して、将来を考えるきっかけになり、有意義だった」「また参加したい」などの感想がよせられました。



<柿の袋がけを行う参加者>



<ラウンドブーケ作成を行う参加者>



<若手農業者(農大卒業生)と語る会の様子>



<座談会の様子>



<閉校式での研修生代表挨拶>